

# 伊丹福音ルーテル教会 顕現後第六主日礼拝のしおり

## 2022年2月13日

### 前奏

#### 招きのことば：詩編 1 編 1-3 節

いかに幸いなことか、  
神に逆らう者の計らいに従って歩まず 罪ある者の道にとどまらず  
傲慢な者と共に座らず 主の教えを愛し その教えを 昼も夜も口ずさむ人。  
その人は流れのほとりに植えられた木。  
ときが巡り来れば実を結び 葉もしおれることがない。  
その人のすることはすべて、繁栄をもたらす。

#### 罪の悔い改めと赦しのことば

**会衆：** 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。  
私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：** 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

### 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくんだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちの心はときとして不平や不満に満たされてしまいます。怒りや絶望に翻弄されます。どうぞあなたから与えられているものに満足をしつつ、隣人とともに幸せをつくることに成長できるよう、導いてください。今朝もみ言葉を聞いて神様のみ旨に従ってまいります。あなたは救い主イエス様をお送りくださって私たちの罪を赦し、あなたの子どもとしてくださいました。どうぞあなたの御心にふさわしく歩ませてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、なお緊張感を保っていかなければなりません。その中でも 御手にゆだね確信をもって、あなたの子どもとして 安心して 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

## 使徒書朗読：第1コリント15章12-20節

キリストは死者の中から復活した、と宣べ伝えられているのに、あなたがたの中のある者が、死者の復活などない、と言っているのはどういうわけですか。死者の復活がなければ、キリストも復活しなかったはずです。そして、キリストが復活しなかったのなら、わたしたちの宣教は無駄であるし、あなたがたの信仰も無駄です。更に、わたしたちは神の偽証人とさえ見なされます。なぜなら、もし、本当に死者が復活しないなら、復活しなかったはずのキリストを神が復活させたと言って、神に反して証しをしたことになるからです。死者が復活しないのなら、キリストも復活しなかったはずです。そして、キリストが復活しなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今なお罪の中にあることとなります。そうだとすると、キリストを信じて眠りについた人々も滅んでしまったわけです。この世の生活でキリストに望みをかけているだけだとすれば、わたしたちはすべての人の中で最も惨めな者です。しかし、実際、キリストは死者の中から復活し、眠りについた人たちの初穂となられました。

## 福音書朗読：ルカによる福音書6章17-26節

イエスは彼らと一緒に山から下りて、平らな所にお立ちになった。大勢の弟子とおびたしい民衆が、ユダヤ全土とエルサレムから、また、ティルスやシドンの海岸地方から、イエスの教えを聞くため、また病気をいやしていただくために来ていた。汚れた霊に悩まされていた人々もいやしていただいた。群衆は皆、何とかしてイエスに触れようとした。イエスから力が出て、すべての人の病気をいやしていたからである。さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せ

られるとき、あなたがたは幸いである。その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている。今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる。すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

### 讚美歌 352 番

- 1 天(あめ)なる喜び こよなき愛を たずさえ くだれる わが君 イエスよ  
救いの恵みを あらわに示し いやしきこの身に 宿させたまえ
2. いのちを与うる 主よ、とどまりて 我らの心を とこ宮となし  
あしたに夕べに 祈りをささげ たたえの歌をば 歌わせたまえ
3. 我らを新たに つくりきよめて 栄えに栄えをいや増し加え  
みくにに のぼりて み前に伏す日 み顔の光りを 映させたまえ **アーメン**

### 説教：「その日には喜び踊りなさい」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

人は幸せを求めて生きています。皆さんもひとりひとり、これが幸せだ、というものをお持ちでしょう。世の中にはたくさんの幸福論があります。これこそ幸せというものだ、このようにすればその幸せをつかむことができる、と教えます。さて、イエス様のところには大勢の人々が、ユダヤ全土とエルサレムから集まってきてお話を聞きました。遠くティルスやシドンという地中海に面した海岸地方からも来ていたようですね。そして今日開かれている箇所は、特に弟子たちを見て「幸い」と「不幸」について教えているところです。幸せを四つ、不幸を四つお話しください、と言われたらみなさんならどうお答えになりますか。イエス様ご自身が幸せでした。そしてその幸せを弟子たちに与えています。私たちも幸せについて考えてみましょう。

イエス様のお話になった四つの幸せと四つの不幸は、互いに関連していました。イエス様はまず、貧しい人は幸いです、神の国はあなたのもので、と言われ、富んでいる人は不幸です、もう慰めを受けているからです、と言われました。第二には、今飢えている人は幸いです、満たされるからです、今満腹している人は不幸です、飢えるようになるからです、と言われました。第三は、今泣いている人は幸いです、笑うようになります、と言われ、今笑っている人は不幸です、悲しみ泣くようになるからです、と言われました。そして、最後は、憎まれたり、イエス様のために追い出されたり罵られたり汚名を着せられたりしたら幸いです、そんなとき

は喜び踊りなさい、天でおおきな報いがある、これまで預言者も同じようにされた、言われ、また、ほめられると不幸です、これまで偽預言者たちも同じようにされた、と言われました。

どうでしょうか。意外ですね。貧しく、おなかがすいて、泣いていて、憎まれたり罵られたら、幸せでしょうか。むしろ何不自由ない裕福な暮らしができる人、食べ物に困らずいつでもおなか一杯食べることができる人、笑顔の人、ほめられる人が幸せではないでしょうか。この正反対のことを教えられるイエス様はちょっとおかしいのではないか、と思われませんか。

私たちが求める幸せは、貧しさや飢え、悲しみや人からの憎しみを避けて、明日の心配しないで今日を気持ちよく楽しく生きることですね。イエス様のもとに押し寄せた人々も、苦しみから解放されて夢がかなう幸せを求めていたのではないのでしょうか。

しかし、イエス様が不幸だと言われた人々、つまり、富んでいる人、今満腹している人、今笑っている人というのは、神様の助けがいらないと思うほどに自分のために財産や食べ物が確保していて、私は自分の力で幸せになったと思っている人です。たくさんの神様の恵みによって今の自分があることを忘れている人です。あたかも自分の力で自分を保っていると考え違いをしている、高ぶった人です。その人は与えられているもの、管理を託されている富を、自分のためだけに蓄えておこうと考えています。

貧しくて、今飢えていて、今悲しんでいる人には、はじめから貧しい人と、貧しくなった人がいます。飢えるほど食べ物に困る人、貧しい人、悲しんでいる人は助けを神様に呼び求めます。ルカ 11 章 13 節にあるように、天の父なる神様は求めるものには喜んで聖霊を与えてくださいます。

また、貧しくなった人もいます。食べること、着ることのように体のことで思い煩わないでも神様は私たちを養ってくださいます。宝のあるところに心もあります。だからイエス様は、恐れなくて持ち物を売り払って必要のある人に施しなさいと言われました。それは天に宝を蓄えることです。天の宝は誰も盗めません。虫も食い荒らしません。

この世で富をため込み、富を守ろうとする人の心は富に縛られて不自由です。ルカ 16 章に登場するお金に執着をしていたパリサイ派の人々や、ラザロが門の前にいたあの金持ちはそのような人でした。ルカ 18 章でイエス様のもとに来たいへんなお金持ちの議員は、イエス様から持っているものを売り払って貧しい人々にわけなさい、天に宝を積むことになり、と言われて、どうしてもそうすることができず、悲しんで去って行きました。このように、富んでいる人、今満腹の人、今笑っている人は、もう慰めを受けていて、いつか飢えるようになり、悲しみ泣くようになり、神様が祝福してくださっていることを見ないで、自分の手で幸せをつかんだと思っているおごりがあるからです。宝のあるところに心があります。世にある幸せを神様に感謝する心ではなく、世の幸せにだけ心とらわれているからです。

反対に、自分に与えられているものは神様からの祝福だと感謝している人もいます。ルカ 21 章の貧しいやもめはその人でした。お金持ちがこれ見よがしに神殿で献金している横で、目立たずに持てる全てのレプトン銅貨二枚を献げました。ルカ 10 章の「よきサマリヤ人のたとえ」では、強盗に襲われて死にそうになっている旅人を助け宿屋につれていって介抱をし、お金も払った愛の姿が描かれています。ルカ 19 章の徴税人ザアカイは、イエス様にお出会いして、財産の半分を貧しい人に与え、仕事上の権威を悪用して不正な取り立てをした人に四倍にして償いました。このように人に与えることで自分は貧しくなる人、天に宝を積む人がいます。

私たちは自分で自分の幸せを獲得するようにと教えられて育ってきました。よい学校で学び、よい仕事ができるようになること、よい家庭をともに築き、住むところ、着るもの、食べる物に困らない生活を立てあげるように努めています。しかし、それは本当にすべて自分の力や知恵で獲得したことでしょうか。実は、命を生み出してくださった神様が、あなたが育つ環境を整え、たくさんのよい出会いを与えて、そのなかで自分を鍛えて努力できる力を与えてくださったのではないのでしょうか。そのような神様を私たちはすぐに忘れてしまいやすいのです。

今あるのは、自分の知恵、自分の幸運、自分の努力によると思っている人は、心に恐れと不安を宿しながら、過剰な自信か、適当な諦めで人生を歩みます。予想通り夢がかなわないときは自分を責めて苦しみます。人の成功や幸運を妬み、プライドを傷つけられては恨み、抜け駆けされないように神経をとがらせます。神様の祝福も導きも認めないで、そこにおられる神様を無視し続けて生きていくこのような人は、人生の終わりには、また世のおわりには、神のいないところで貧しく、飢えて、悲しみ泣いて過ごすことになるイエス様はおっしゃいました。

富んでいる人、今満腹している人、今笑っている人は、あたかも自分の力で自分を保っていると考え違いをして、たくさんの神様の恵みによって今の自分があることを忘れています。神様の助けはいらないと思っています。そして、与えられているもの、管理を託されている富を、自分のためだけに蓄えておこうと考えています。これが罪びとの姿です。

イエス様は神様への感謝のない、独りよがりの私たちをご存じです。誰かに言われるまでわからないでいること、言われても全面的には認めたくなくて弁解を聞いてほしいと思うこと、そのようなあり方を自分では変えることができないことなどをご存じです。

イエス様は私たちを大切に思い、私たちのために貧しくなってくださいました。神の御子として天の栄光をお持ちであるのに、私たちと同じ人となってくださいました。イエス様は喜んで私たちの生きる苦しみを担ってくださいました。貧しい人々を助け、罪ひとと呼ばれる人々の友となり、プライドの高い人々の間ではきよさと威厳を保ちながら愛をもって真理を語り続けてくださいました。一人息子を亡くして悲しみのどん底にいた女性に、「もう泣かなくてもよい」と言われて息子をよみがえらせてくださいました。

当時の人々は表面的には神様を求め、神様のためにすべてをしている熱心な人でした。しかし、自分たちが神様の祝福を受けているのは神に選ばれた先祖のおかげだとか、神様に選ばれた民として自分たちがみ教えに従った歩みをしてきたからだ、と考えていました。愛をもって真実を語るイエス様は彼らに、それは神様のめぐみに感謝するよりも、自分たちは立派な民なのだ、と考えていることを示しました。人々はイエス様を十字架にかけて殺してしまいました。イエス様は憎まれて、追い出され、汚名を着せられ、命をうばわれました。

人々はイエス様なしで社会をまわし、人々の暮らしをたてていきたいと考えて、イエス様をなきものにしました。罪びとは自分で自分の心を変えることができません。神様はイエス様をなきものにした罪びとの罪を、そのために死なれたイエス様の上でお裁きになりました。人の思いを上回る神様の愛がそこにあります。神様なしで生きようとする私たちの心は、イエス様から顔をそむけます。払いのけようとし、今向き合わず後で少しずつ考えようと引き伸ばします。そのように私たちもイエス様なしで生き続けたいと思うのです。その罪をイエス様は引き受けて十字架で死んでくださいました。神様は私たちの自己中心の思いもろともにイエス様を十字架で裁いてくださいました。イエス様は血を流し、肉を裂かれて死なれました。

私たちはイエス様によって罪の赦しと新しい心をいただきます。幸いです。弟子たちは、財布も食べ物ももたずに町や村に遣わされました。イエス様が使命に生きる歩みを支えて、祝福してくださるという体験をしました。そして、イエス様は再び来てくださいます。私たちは思いがけない時に帰ってこられるイエス様を希望に溢れて待ち望みながら、今週も神様に託されている時間や能力を賢い管理者として生かして歩みます。世の現実には、貧しさ、飢え、悲しみです。そこで私たちは神様ぬきで自分の飲み食いを楽しむのではなく、神様が出会わせてくださる隣人に私の全てを与えて、ともに幸いをつくっていきます。この歩みが幸いなのです。

罪を赦して新しいいのちを与えてくださるイエス様は、多くの人にとって躓きです。イエス様に感謝し、信頼して歩むことを人々から理解されないことは驚くことではありません。むしろ、イエス様は自分たちがイエス様のゆえに人々から理解されず、追い出され、罵られ、汚名を着せられるときに、喜び踊りなさい、と言われました。それが幸いなのです。イエス様を理解せず殺してしまったことが、その人々の救いになるのです。イエス様の愛で包まれて、ひとりも漏れることなくイエス様の赦しにあずかることができるように、お祈りをしていきましょう。

その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。ルカ 6:23

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあつて守ってください。アーメン

### **讚美歌 333 番 献金 献金感謝の祈り**

1. 主よ、われをば とらえたまえ さらば わが霊(たま)は 解放たれん

わがやいばを くだきたまえ さらば わが仇に 打ち勝つを得ん

2. わが心は 定かならず 吹く風のごとく 絶えずかわる  
主よ、御手もて ひかせたまえ さらば直きみち 踏み行くを得ん

3. わが力は 弱く乏し 暗きにさまよい 道に悩む  
天(あま)つ風を 送りましたまえ さらば愛の火は 内にぞ燃えん

4. わがすべては 主のものなり 主はわが喜び また幸(さち)なり  
主よ、みたまを 満たしたまえ さらば永遠(とこしえ)の 安きを受けん **アーメン**

### 主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。  
みこころの天になるごとく地にもなさせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。  
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。  
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。  
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### 頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

### 祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき  
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、  
豊かにありますように。 **アーメン**

### 後奏